

見つめる目

しなやかな心

医療を支える 看護の手

看護部だより

2015 年

04 月号

第 288 号

特定医療法人衆済会
増子記念病院
看護部
部長 上村 志磨子
(認定看護管理者)

平成 27 年度介護報酬改定 訪問看護ステーションの場合

結婚・出産・子育て…「いつか来た道」

ますこ訪問看護ステーション

所長 寺本祐子

梅や木蓮の花が咲き、ようやく桜便りが聞かれるようになり、市内でもちらほら桜の花を見かけるようになりました。「今年も春に会えた。桜の花を見る事ができた」との思いで、ほっとする瞬間です。国内や世界では恐ろしい事件や考えられない悲しいニュースが多い中、春の明るい話題は気持ちをほぐしてくれます。

さあ！新年度の始まりです。皆さんはどんな目標を立てられましたか。

私は、公私ともに 1 年の目標を立てますが、まずは花粉症に負けず、仕事へのエネルギー充電ということで、この時期を楽しみたいと思います。

1 平成 27 年度、介護報酬改定情報

介護報酬は 3 年ごとの改定ですが、今年度は 9 年ぶりに 2.27% のマイナス改定となります。高齢化の影響で介護費用が膨らみ続けていましたが、今回のマイナス改定で 2270 億円の財源が節約できる計算だそうです（中日新聞より）。

訪問看護に関しては、基本報酬が訪問時間に応じ 8～27 単位減となります。1 単位の単価が 11.05 円で、0.21 円の増加となりますので、総合計ではさほどの増減はない予定です。

その他の改定として

① 8 月より、一定以上所得者の負担が 1 割から 2 割になります。

② 事業所と同一敷地内の建物に訪問する場合は 90/100 と減額されます（豊国ハイツ該当）。

③ 在宅における中重度の要介護者の療養生活に伴う医療ニーズへの対応を強化する観点から、「看護体制強化加算」300 単位/月が創設されました。

算定要件は「緊急時訪問看護加算」「特別管理加算」「ターミナル加算」と、それぞれの算定基準に適合する必要があります。基準に満たなくなった場合は、取り下げとなります。当ステーションでは現在も対応中ですが、概算ではぎりぎりの割合のため、確実に算定できるよう見極めて行く必要があります。

今回の改定で、ケースによっては訪問看護が必要であっても、支払の問題から受け入れを拒否される可能性も出てくると考えられます。そのため、看護の必要な利用者には主治医・CM と良き連携をとりながら、調整していく必要があります。

2 地域包括ケアシステムとは

2025 年問題（団塊世代が 75 歳となる）の対策として、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療、介護、介護予防、住まい、生活支援が一体的に提供されるようにと考えられています。合わせて認知症高齢者の増加も見込まれ、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要とされ、取り組みが始まっています。

看護職の役割として、医師や介護職を含む他職種との連携、夜間を含む急変時の対応、24 時間 365 日対応できる看取りの体制づくりが重要となってきます。そのために、人材確保、看護師の育成、質向上が急がれるところです。

訪問看護で実践している私たちから、大変さだけでなく、日頃実感している、魅力ややりがい伝えていくことも大切な役割だと思っています。この続きは、今月号の「部署たより」から、感じ取ってもらえると嬉しいです。

3 いつか来た道

当院の看護師は圧倒的に女性が多く、各部署から結婚、妊娠、出産の報告があり、おめでたいことです。現場は大変ですが、常に育児休暇中の看護師が数名ずついます。院内保育所の存在も大きく、病児や延長保育、院内保育所ならではの様々なサービスもあります。そして育児休暇で復帰してくる看護師を現場は待ちに待っています。母性保護、子育て支援など、時代は変わり、働きやすい時間での勤務調整や夜勤免除などがあります。

子どもは 1 年 1 年成長し、院内保育所から公立保育所、小学校入学と進みますが、その節目で仕事が続けられるのか、母親としての決断が迫られます。子育てとの両立には家族の理解と協力は必須です。そして子どもの心身の健康も重要なことです。

私の場合、長男、長女の産休明け後も病棟勤務でした。夜勤も同じようにこなしていましたが、夫の帰りが遅く、夜勤の時は院内保育の延長や保育所仲間に助けてもらっていました。「夜勤が大変だから仕事を辞める」という選択はなく、一時期ベビーシッターに助けてもらいました。夜勤日の夕方、公立保育所にお迎え、習い事の付き添い、夕食、風呂に入れてもらい、夫が帰宅するまでお願いしていました。安心して夜勤に専念することができ、2.3 年で落ち着きました。しかし、学校から「ただいま」と帰宅しても、「お帰り」と迎えてあげられなかったことや、授業参観などの行事にはあまり行けず、「うちのお母さんは仕事で忙しい」と、知らず知らず子ども心に植え付けてしまったことは、未だ後悔があります。

お世話になったベビーシッターのお姉さんは、偶然にも、孫たちが通う幼稚園の園長先生であることが分かり、30 年ぶりに感動的な再会をすることができました。

長女、長男はそれぞれに家庭を持ち、2 月、長男には 5 人目の子供、私にとっては 8 人目の孫が誕生しました。小学校の送り出し、幼稚園の送迎、未入園児と赤ん坊の世話と、てんてこまいです。

出産直後は長男も 1 週間の休暇をとり、私も仕事が忙しい中、休みをもらいました。

子どもの成長は早いもので、同じ状況が何年も続くわけではありません。「皆が無理のないように、できる時間にできることをして乗りきろう」と、家族総出でやりくりの日々です。子供たちと子育ての話が出来ることは幸せなことです。そして子どもたちから教えられることも多くあり、また私達夫婦の体調などを気遣ってくれ、嬉しく思います。

年々、母親としての役割も変化してきていますが、今は、長男、長女の子育てを私なりに応援していくことだと思っています。

子育ては、様々な問題をかかえる時期もありますが、「この部分を助けてもらえたら働ける」、「この期間を乗り切ればなんとかなる」、「あと〇年したら常勤になれる」など、子どもの成長に伴い何とかなっていくものです。

これから結婚、出産を考えている人、そして子育て真最中の人、すでに子育て終了の人、それぞれの立場、経験の中で、何か協力できることはありませんか？心が疲れているとき、悩んでいるときは、話を聞くだけ、言葉かけだけでも救われることがありますよ。

みんな「いつか来た道」、できる部分をできる人が力を貸し、子育てを支えあえる「職場作りの循環」ができ、看護師確保対策に繋がっていくことを願っています。

以上



部署報告：訪問看護ステーション

「訪問看護ステーション」に 異動して

「ますこ訪問看護ステーション」

本川早苗

1 異動

私は 2013 年 6 月、応援体制で訪問看護ステーションに 10 ヶ月間勤務しました。その時の体験で「ああ、私はこんなことがしたかったんだ～」と思うようになり、2014 年 7 月より、正式に訪問看護ステーションに異動しました。

2 訪看のイメージとは

皆さんは「訪問看護」とはどんなイメージですか？「看護師辞めるのかあ」「役に立たなくなったのか」等、実際私が言われた言葉(なんて失礼な)です。反面「重要な仕事、本川さんには合っていると思うよ」とも言われました。入社後何年間か、義父母、祖母のことで在宅サービスを受ける側の経験をし、医療提供者双方の立場を学ばせてもらい、この時期の訪問看護への応援は、私にベストだったのかも知れません。

3 新鮮な毎日

応援の時には、毎日が新鮮でした。80 歳の男性、献身的に介護する妻と家族との関わりで、妻は夜間も夫の痰の音に注意を払いながら、何時間か毎に吸引し、おむつ交換をしていました。昼間休むこともなく、痰吸引、胃瘻からの食事もこなし、その上、新人の私にも、とても優しく穏やかに接して下さいました。「最後は自宅で」という家族全員的意思を示され、その通り、娘、孫家族と一緒にご自宅で看取られました。

平成 27 年度看護部行動理念 「振り返ろう、看護の原点！充実させよう、チーム医療！」

いつもどうしてこんなに優しく穏やかに、そしてしっかりとして居られるのだろうか？と感心し、尊敬しながらの訪問でした。

寝たきりの人でも、本人、家族が望めば、自宅で生活していくことが出来る！これは私が訪問看護に来て最初に感じたことです。

4 生きる時間を共有する

訪問看護師がバイタルサイン測定、一般状態観察、医療行為を行い、ヘルパーが 1 日 3 回の食事やおむつ交換、掃除や洗濯を行い、訪問リハビリ、訪問入浴、訪問診療等、その人に必要なサービスがマネジメントされ 1 日が成り立ちます。

その 1 日が継続していけば、在宅生活が成り立ち生きて行けるのです！極端な表現になりますが、私たちの訪問は「その人の生きる時間の一部であり、大切な時間を共有しているんだ！」と忘れてしまったのです。

5 色んな新しい学び

今までの看護師生活 22 年余の中で、「ありがとう」の言葉を多々頂きましたが、こんなに感動しながら看護を続けて行ける経験は無かったように思いました。感動し、感謝しながら、看護学生のように、いろんな学びを吸収しました。

病棟では病気のことに注意が向きがちで、病気が治ったら「退院ですね！」と単純に喜んでいました。しかし、高齢の方がご自分の家で生活することは今までと同じようにとはいかなくなるのも事実で、現状を受け入れつつ、病院からご自宅への移行援助も重要な事です。そのためには、「食べる事は出来るけど、食事は誰が作るの？薬は飲めても、管理は誰がするの？着替えは出来ても、洗濯や掃除は？お風呂はトイレはどうやって行く

の？転びそうな感じだけど家はどうなっているの？傷の手当は誰がどうやって？」等、その人の生活全体を想像することが大切だと思いました。家ででの生活が、病院の退院調整から始まっていることの重要さに今更ながら気付きました。

6 忘れられない事例

昨年 7 月に移動になってからは、訪問件数も増えました。ますます様々な事例に遭遇し、その中でもう一つ、忘れられない事があります。

80 歳後半の男性、慢性閉塞性肺疾患（COPD）で一人暮らし、ヘルパーと訪問看護が週 1 回訪問。呼吸が苦しく日常生活にも支障をきたしていました。しかし、受診しても検査をするだけで、主治医は顔も見ないで「変わらないね？今度の診察日は〇日だよ」、本人が「呼吸が苦しい」と訴えても「もう治らないからねっ」と言うだけのため、症状への不安は解消されませんでした。

後日、あえて受診に同行させてもらいましたが、本人の言う通りでした。訪問時「前の先生は良かった」と何度となく話されるため、本人の意思を確認し、以前の主治医が移動された病院へ、受診することになりました。紹介状を依頼、受診の準備が整い、受診に同行させてもらいました。

その先生は「覚えていますか？久しぶりですね？苦しいですか？」と話され、聴診をされました。一通りの検査結果から、「肺気腫ではあるが、まだ酸素療法の適応ではない。肺機能は残っているため、吸入薬剤の変更と、呼吸のための運動をしていくように」と指示がありました。その後、当院のリハビリ室や栄養科に相談し、呼吸リハビリと食事の

重要性を説明しました。

徐々に食事量がアップし、吸入薬の効果もあり、自覚症状の改善が見られるようになりました。何よりも、ご本人が信頼する先生からの言葉を素直に受け止め、私たちの提案する内容にも耳を傾けられ、「治らない病気ではあるが少しでも楽になった」と感じてもらえた事が嬉しかったです。

その上、今回の相談に対する、いろいろな方からの返答が素早く、協力的であったのがとてもありがたく感じました。

担当看護師本人の気持ちの受け止め方、所長の人脈の太さや対応の早さなど、本当に感激することばかりでした。そしてとてもいい経験をさせてもらい、そこに参加できたことを嬉しく思いました。

7 初心に帰り

応援体制の時に「本川さん、もう自分の看護観の最終章よ！やりたいことをやりなさい！」と言われ、自分が看護学校を卒業する時に発表した看護観を思い出しました。初心に帰り、これからも感受性を豊かに、心の思いを受け止められる看護師でいたいです。

これからの訪問看護は大変な時代にはなっていくと思いますが、ご自宅で生活することを望まれる方がいる限り、笑顔で訪問を続けていきたいと思っています。

8 看護の未体験ゾーン

最後に、訪問看護は決して大変な事ばかりではありません。自分の感性も磨かれ、そして広い視野に立ってみる事が出来るようになります。是非、あなたも私達と一緒に“看護の未体験ゾーン”を覗いてみませんか！

以上

学生コーナー

<入社して>

思いやりと責任を持った 素敵な看護師になりたい！

4階病棟 学生 藤原 愛喜

私は3月11日に名古屋に赴任してきました。名古屋市医師会看護専門学校の第一看護学科に合格し、増子記念病院への就職を決めました。

名古屋のことは全く分からず、これからの一人での生活のことや勉強のこと、そして実際に病院で働くということへの不安でいっぱいでした。

生まれてから18年間、同じ土地、同じ環境で、家族や友達に囲まれ過ごしてきたので、この大きな環境の変化に耐えられず、泣く毎日でした。初出勤も大きな不安を抱えたまま向かいました。

しかし、看護師の方や先輩の学生の方が優しく声をかけてくださり、患者さんも笑顔で接してくださるのでとても気持ちが楽になりました。また、自分と同じように地元を離れて名古屋に出てきて働いている方が多くおられたので、自分も頑張ろうという気持ちが高まりました。

今は先輩の学生の方について、仕事内容や介助の仕方、患者さんとの接し方などを説明していただいたり、見学したり、実際に少しやらせていただいたりして学びながら少しずつですが仕事を覚えています。

患者さんは抱えている疾患も性格も様々で、介助方法も異なるのでそれを把握するのは大変ですが、とても大切なことなので

しっかり患者さん一人ひとりと関わり、覚えていきたいです。

4 月になったら学校も始まります。働きながら通うので大変ですが、学校で学んだことは仕事で活かし、仕事で学んだことは学校の勉強や実習で活かしたいと思います。

まだ不安はありますが、仕事も勉強も頑張っ、思いやりと責任を持った素敵な看護師になりたいです。

これから 4 年間、まだまだ先は長いですが一生懸命頑張っていきますのでご指導よろしくをお願いします。

以上

<入社して>

笑顔で頑張ります！

誰かの役にたっているんだ！

4 階病棟 看護学生 小楠 楓

私は高校 2 年生の時、「ふれあい看護体験」に参加したことがきっかけで看護師を目指しはじめました。

市内の病院へ行き、実際にナース服を着て、入院している患者さんの手浴・足浴などをお手伝いしました。その時、患者さんから、笑顔で「ありがとう」といっていただいた事がとても嬉しくて、私も自然と笑顔になれたのを今でも覚えています。

また、テキパキと働く看護師さん達をみて、いつか私もあんな風になりたいと強くおもいました。

高校を卒業し、長崎から赴任してきてもうすぐ 1 ヶ月が経とうとしています。全然知らない環境での初めての仕事ということで、うまくやっていけるのか不安でいっぱいでした。

勤務初日、働く看護師さんや学生の先輩方を見たときは、「とれも大変そうだな」と思い、「自分に出来るのか」と増々不安になりました。また、どんな時でも笑顔を忘れず患者さんやそのご家族の方と接している姿をみて、「さすがだな、かっこいいな」と思いました。

赴任してきたばかりの頃はただ学生の先輩についてまわって、仕事をする姿を見ていることしかできませんでした。何もできない私に先輩方は優しく、丁寧に仕事を教えてくださいました。看護師の方や先輩方に教わったことはメモをとるようにし、家に帰ったらそのメモを見ながら振り返って、1 つ 1 つ覚えていけるようにしています。少しずつですが、やりがいも感じています。

最近では、食事の配膳やオムツ交換などもさせていただけるようになり、患者さんと接する機会が増えてきました。患者さんから「ありがとう」といっていただく度に、こんな私でも「誰かの役にたっているんだ」と嬉しく思います。

看護師の方々や先輩方は、私のお手本であり、目標です。いつか、私もそんな風に思われる看護師になりたいと思っています。今はまだ、至らない点が多いですが、見て、聞いて、たくさんのことを学んで少しでも看護師の方々や先輩方に近づきたいです。

4 月になると、学校がはじまります。勉強と仕事の両立はとても大変で、くじけそうになることもあると思います。きつい時こそ元気と明るい笑顔で頑張っていきます。まだまだ分からない事ばかりでたくさ

んご迷惑をおかけすると思いますが、精一杯頑張りますのでご指導よろしくお願ひします。

以上

第 287 号<3 月号>

「患者さんの笑顔は看護 の成果」の感想

「労働と看護の質向上のためのデータベース事業（D i N Q L ディンクル）」の参加により客観的に自分たちの「看護」を評価できるようになったことを知り、新しい切り口で自分の看護を見直すことができると思いました。

データや数値化した評価も大切な指標ですが、それ以上に目の前にいる患者さんが笑顔でいることが私たち看護師にとっての喜びです。

患者さんを笑顔にするためには、私たち看護師も笑顔でいること。

患者さんが苦しんでいる時は技術的なことだけではなく精神面のフォローをして患者さんの気持ちに寄り添うことを今まで以上に大切にしていきたいと感じました。

患者さんにとって看護師との心の距離を近くに感じてもらえる看護を提供していきたいです。

外来 徳永

連載：がん闘病記 ⑪

えっ！ステージⅣ？

手術室 打田潤子

26 姉妹旅行

今春、妹への年賀はがきに「3人で旅行したいね」と書いた。早速行こうと帰ってきた。初めての姉妹旅行だ。姉がスケジュールをたててくれた。行き先は有馬温泉。電車を乗り継いでの一泊二日の旅行だ。待ち合わせ場所は、大阪駅の「時空の広場」だ。金の時計と銀の時計があるのは名古屋駅と同じだ。行ったら、寒かった。名古屋駅は駅構内だが、大阪の方は屋根はあるが壁がないから吹きさらしだ。カメラを手に写真を撮っている人が結構いた。三人揃ったところで、近くのレストランで食事をし、あとはゆっくりショッピング。姉と妹はブーツを買った。私は以前ならすぐ買ったものでも、今はちょっと考える。何をかという、これはあと何年使えるのかなということである。そんなに長く使うわけじゃないから、まあいいやとやめることが多い。

さて、買い物を手、電車に乗り込む。3回ほど乗り換えただろうか、結構な人が来ていた。宿に到着したら、なんとと言っても温泉である。有馬温泉売りの金泉・銀泉に浸かる。術後、初めて温泉に行った時は、お腹の傷をどう隠そうなどと考えたが今では体を洗った後は、タオルは湯に浸けてはいけなから、頭に巻いている。すべての湯に通る。湯上がりはお茶で喉をうるおし、夕食を待つ。時間に食事どころに行くと、いらっしやませの挨拶の後、少し待った。係りの

人員は少ないようだ。ようやく頼んだ飲み物が来て乾杯をする。もちろんビールだ。どれも美味しかった。「やっぱり関西は味付けが違うなあ」とつくづく思う。

何度食べても名古屋のうどんのつゆは塩辛い。「ちんやのうどんはつゆが全部飲めたなど。」言うと、姉が「あそこはもうないで。」と言った。名古屋でつゆが全部飲めるうどんなどお目にかかったことがない。

翌日、大阪に戻り、お昼ごはんは天井を食べた。これがまた名古屋と違う。天井のつゆは別の容器に入れられていて、好みに調節できた。名古屋の甘辛い味ではなく、さらっとした「ああ好い加減」と思う味だった。甘すぎないし塩辛過ぎない。赤だしもだしがきいて辛過ぎない。お腹もいっぱいになり、三人それぞれ帰路についた。

行きは近鉄で行ったが、帰りは新幹線にした。ミスドでいっぷくし、「また行こうね」とメールした。コーヒを飲みながら、ふと思い出した。そういや、お昼ご飯を食べている時、姉が言った。「潤ちゃんが手術すると言って、手術の日ががんセンターへ行った時、なんか違ったんやな。何と云うか、いろいろ調べて行ったんやけど、病院に行ったらなんか違った。」

27 手術を楽しみにしていた

そこで私は答えた。「それはきっと、私は手術は怖いとかそんなんはぜんぜんないけど、よその病院の手術室はどんなんやろとか、いつも患者さんに硬膜外の体位をとるときいろいろ声掛けするけど、実際は硬膜外のカテーテルを入れる時はどんな感じやろとか、麻酔を掛けられる時はどんなんやろとかすごく楽しみにしてたからや。」と。

隣で妹がつぶやく。「そこか。それで手術室へ行くときも何か雰囲気違ったのか」と納得した様子だった。私が「明日は明日の風が吹く」といったふうだから、娘・息子達にも悲壮感はない。手術に際してしっかり言っておいたことは、「手術で取れた癌組織はしっかり写真に撮っておいてよ」ということだけだった。

28 最近言われること

最近言われることは、「エンディングノートはちゃんと書いておいてよ」ということだ。財産なんぞはないからいいが、「葬式はどうして欲しいか」、「八事で焼却後の骨はどうするか」、「お墓はどうするか」などなど。

初めての姉妹旅行は無事終わった。次はどこへ行けるかな、楽しみだ。

(つづく)

